

## 結果の概要 中学校英語

### 全体的な傾向

- 「書くこと」の領域においては、高学年になるにつれて課題が大きくなっている。
- 第1・2学年においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の観点において正答率が昨年より高くなっている。
- 「理解の能力」に比べ、他の3つの評価の観点（「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「表現の能力」及び「言語や文化についての知識・理解」）は低い状況にある。

### 1 出題のねらい

- ① 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域から、全ての生徒が身につけるべき内容を出題した。
- ② 第1学年においては、音声におけるコミュニケーション能力をみるため、「聞くこと」に重点を置き、他学年に比べ、多くの問題を出題した。
- ③ 第3学年においては、新たに、与えられた日本語の情報をもとに英文を書くという表現の能力についての問題を出題した。
- ④ 単に英語の文法や語彙などについての知識だけでなく、実践的コミュニケーション能力の基礎的・基本的な内容の定着をみることができるよう出題の工夫を行った。
- ⑤ 昨年度の課題を踏まえ、類似問題を出題することで比較・分析を行えるようにした。

### 2 学年別結果の概要

内容領域	正答率 (%)			評価の観点	正答率 (%)		
	1年	2年	3年		1年	2年	3年
聞くこと	86.6	79.1	75.5	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	74.6	56.8	51.1
読むこと	78.8	67.3	65.6	表現の能力	72.0	57.2	48.0
書くこと	63.7	57.4	47.0	理解の能力	84.2	72.2	70.3
				言語や文化についての知識・理解	66.6	68.2	54.9

### 3 今回のテスト結果からみた特徴

- 「聞くこと」に関する問題の正答率は、すべての学年において他の内容領域と比べて高い状況にある。
- 英語で自己紹介を行う問題（第1学年<sup>9</sup>）は、「書くこと」の問題の中でも、高い正答率を示している。
- 否定文がポイントとなる文章の読み取り（第1学年<sup>5</sup>（1））や、単語を正しく並べ替えて否定文を作る問題（第1学年<sup>12</sup>（3））等、否定文に対する意識や理解に課題がみられる。
- 数字の英語表記、複数形の理解、動詞の用法の理解に課題がみられる（第1学年<sup>11</sup>（2））。
- 第1・2学年の「表現の能力」においては、昨年度より高い正答率を示している。
- “how many～”を使った疑問文の語順を問う問題（第2学年<sup>8</sup>（3））については、昨年と比べて正答率が上昇しているものの、依然として課題がみられる。
- 第2・3学年においては、長文の一部を理解し、正しい内容を読み取る問題に正答率の低いものもあり、課題がみられる。
- 第2・3学年の一つのテーマにそってまとめた内容の英文を書く問題においては、文構造の理解度に課題がみられ、正答率が低い状況にある。
- 比較級を使った聞き取りの問題（第3学年<sup>2</sup>（2））は、昨年と比べて正答率が高い状況にある。
- 長文中の未習語(slurp)の意味を、話の流れから推測する問題（第3学年<sup>8</sup>（3））の正答率が低い状況にある。
- 第3学年における、まとまりのある英文を聞いて具体的な情報を聞き取る問題は、昨年と比べ正答率が高く改善がみられる。